

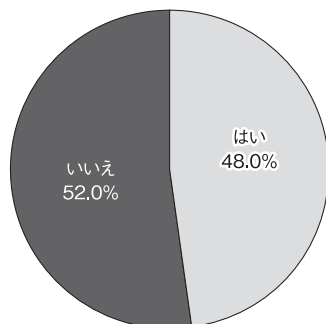
# 奨学金の必要度と実際

**問24-5** 自分にとっては“必要”なものである【日本学生支援機構の“貸与型”奨学金】

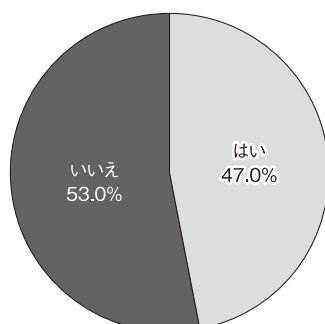
**問25-5** 自分にとっては“必要”なものである【本学独自の“給付型”奨学金】

**問26-5** 自分にとっては“必要”なものである【財団等学外の“給付型”奨学金】

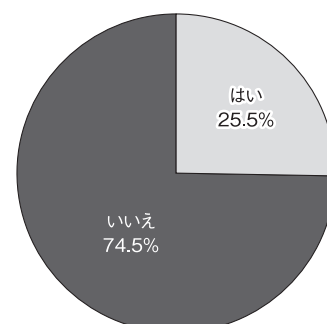
【問24-5】



【問25-5】



【問26-5】



【基数：対象者全員】

## 奨学金を必要とする学生に対する支援の充実が求められている

『日本学生支援機構の“貸与型”奨学金』、『本学独自の“給付型”奨学金』及び『財団等学外の“給付型”奨学金』のそれぞれについて、「必要」かどうかを尋ねたところ、それぞれ48.0%、47.0%、25.5%の学生が「必要である」と回答した。

一方、問24-1、問25-1、問26-1の設問で、それぞれの奨学金について「受けている」かどうかを尋ねたところ、「受けている（受けたことがある）」学生の割合は『日本学生支援機構の“貸与型”奨学金』、『本学独自の“給付型”奨学金』及び『財団等学外の“給付型”奨学金』のそれぞれで、37.9%、15.8%、3.1%であり、奨学金を「必要」とする学生の割合よりも低かった。

このことは、それぞれの奨学金において「必要ではあるが、受けられなかった」学生が生じているということになり、とりわけ『本学独自』及び『財団等学外』の“給付型”奨学金については、奨学金を必要とする学生の割合と、実際に給付されている学生の割合との間に大きな“差”がみられる。

よって今後は、この“差”を少しでも埋められるよう、種々検討していく必要があるだろう。